金沢医科｜医｜場数確率セレクション

【１】2021 金沢医科大学 2/4,一般(前期(１次)) 医

3 個のさいころ A，B，C と 1 枚の硬貨を同時に投げるとき，さいころの出る目をそれぞれ a，b，c とする。このとき，以下のように p の値を定める。

(ｉ) 硬貨の表が出るとき，$p=a+b+c$ とする。
(ⅱ) 硬貨の裏が出るとき，$p=abc$ とする。

(1) $p=7$ になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イウエ}}}$ である。

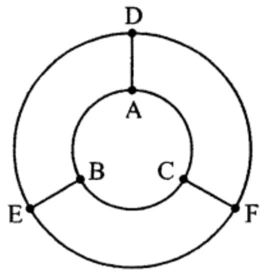
(2) $p=15$ になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カキ}}}$ である。

(3) $p<90$ になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{クケ}}}{\boxed{\text{コサ}}}$ である。

(4) p の値が 10 の倍数になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{シス}}}{\boxed{\text{セソ}}}$ である。

【２】2021 金沢医科大学 3/1, 一般(後期(１次)) 医

図のような，中心が同じで半径が異なる 2 つの円と，それをつなぐ 3 本の線分 AD，BE，CF からなる図形がある。また，この図形の円周上または線分上を移動する点 P が A の位置にある。2 枚の硬貨を同時に投げる試行に対して，P は次の規則に従うものとする。



・2 枚とも表が出るとき，P は時計回りに，円周上の隣の点に移動する。
・2 枚とも裏が出るとき，P は反時計回りに，円周上の隣の点に移動する。
・表と裏が 1 枚ずつ出るとき，P は線分上の隣の点に移動する。

(1)　この試行を 2 回続けて行ったとき，P が A の位置にある確率は $\dfrac{\boxed{ア}}{\boxed{イ}}$ である。

(2)　この試行を 3 回続けて行ったとき，P が A の位置にある確率は $\dfrac{\boxed{ウ}}{\boxed{エオ}}$ である。

(3)　この試行を 4 回続けて行ったとき，P が初めて A の位置に戻る確率は $\dfrac{\boxed{カキ}}{\boxed{クケコ}}$ である。

(4)　この試行を 4 回続けて行ったとき，P が A の位置にある確率は $\dfrac{\boxed{サシ}}{\boxed{スセソ}}$ である。

【３】2020 金沢医科大学 2/4, 一般(前期(１次)) 医

3 個のさいころ A，B，C を同時に投げるとき，出る目をそれぞれ a，b，c とする。これらの値に対して，式 $T=\sin\dfrac{\pi a}{6}+b\cos\dfrac{\pi c}{3}$ を考える。

(1)　T が最大になるとき，$T=\boxed{\text{ア}}$ であり，T が最小になるとき，$T=-\boxed{\text{イ}}$ である。

(2)　$T=0$ になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エオカ}}}$ である。

(3)　T の値が正の偶数になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{クケ}}}$ である。

(4)　$T<3+\dfrac{\sqrt{3}}{2}$ になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}}$ である。

【４】2020 金沢医科大学 2/28,一般(後期(１次)) 医

6 個の数字 1，2，3，4，5，6 をすべて使って，6 桁の整数をつくる。

(1)　6 桁の整数は全部で $\boxed{\text{アイウ}}$ 個ある。

(2)　5 の倍数は全部で $\boxed{\text{エオカ}}$ 個ある。

(3)　240000 より小さい偶数は全部で $\boxed{\text{キク}}$ 個ある。

(4)　小さい方から順に数えて 123 番目の整数は $\boxed{\text{ケコサシスセ}}$ である。

(5)　645321 は小さい方から順に数えて $\boxed{\text{ソタチ}}$ 番目の整数である。

【５】2019 金沢医科大学 1/28, 一般(前期(１次)) 医

3 個のさいころ A，B，C を同時に投げるとき，出る目をそれぞれ a，b，c とする。これらの値に対して分数 $p=\dfrac{5a+2b-c}{100}$ を考える。

(1)　p が最大になるとき，$p=\dfrac{\boxed{\text{アイ}}}{100}$ であり，p が最小になるとき，$p=\dfrac{\boxed{\text{ウ}}}{100}$ である。

(2)　$p=\dfrac{19}{50}$ になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オカキ}}}$ である。

(3)　p を既約分数で表したとき，分母が 4 になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケコサ}}}$ である。

(4)　p を既約分数で表したとき，分母が 5 になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{スセ}}}$ である。

【６】2019 金沢医科大学 2/21,一般(後期(１次)) 医

原点を出発し，数直線上を動く点 P がある。P は，1 個のさいころを投げて 3 以下の目が出たときは正の向きに 1 だけ進み，4 または 5 の目が出たときは負の向きに 2 だけ進む。また，6 の目が出たときは動かないものとする。

(1)　さいころを 2 回投げたとき，P の座標が 1 である確率は $\dfrac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}$ である。

(2)　さいころを 3 回投げたとき，P の座標が 2 である確率は $\dfrac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}}$ である。

(3)　さいころを 4 回投げたとき，P の座標が -3 である確率は $\dfrac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}}$ である。また，P の座標が -2 である確率は $\dfrac{\boxed{\text{キク}}}{\boxed{\text{ケコ}}}$ である。

(4)　さいころを 5 回投げたとき，P の座標が -1 である確率は $\dfrac{\boxed{\text{サシ}}}{\boxed{\text{スセソ}}}$ である。

【７】2018 金沢医科大学 1/18,一般(前期(１次)) 医

問題の文中の $\boxed{\text{ア}}$ ，$\boxed{\text{イウ}}$ などには，符号(－，±)又は数字(0～9)が入りますので，解答用紙のア，イ，ウ，…で示された解答マーク欄にマークしてください。マークをしない場合や複数をマークした場合は 0 点となります。

2 個のさいころ A，B と 3 枚の硬貨を同時に投げるとき，さいころ A の出る目を a，さいころ B の出る目を b とし，表が出る硬貨の枚数を c，裏が出る硬貨の枚数を d とする。これらの値に対して 2 直線

$$\frac{x}{a}+\frac{y}{b}=1 \cdots\cdots ①$$

$$\frac{x}{c+1}+\frac{y}{d+1}=1 \cdots\cdots ②$$

を考える。

(1)　①，②のどちらも点 $(2,\ 0)$ を通る確率は $\dfrac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イウ}}}$ である。

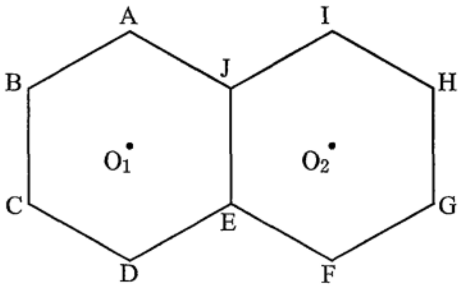
(2)　①，②が一致する確率は $\dfrac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オカ}}}$ である。

(3)　①と x 軸および y 軸で囲まれた三角形の面積を S_1，②と x 軸および y 軸で囲まれた三角形の面積を S_2 とするとき，$S_1=S_2$ になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{クケ}}}$ である。

(4)　(2)の条件以外で①，②が平行になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サシ}}}$ である。

【８】2017 金沢医科大学 1/19, 一般（１次） 医

2 つの正六角形 ABCDEJ と IJEFGH はともに 1 辺の長さが 1 で，左の図のように，辺 JE を共有している。また，正六角形 ABCDEJ に外接する円の中心を O_1，正六角形 IJEFGH に外接する円の中心を O_2 とする。大，中，小 3 個のさいころを同時に投げるとき，それぞれの出る目に対して点 P，Q，R は右の表に示した頂点におかれるものとする。例えば，大の目が 2，中の目が 3，小の目が 5 のときは，P，Q，R はそれぞれ B，E，O_1 におかれる。



点＼大の目	1	2	3	4	5	6
P	A	B	C	D	E	J

点＼中の目	1	2	3	4	5	6
Q	I	J	E	F	G	H

点＼小の目	1	2	3	4	5	6
R	O_1	O_2	O_1	O_2	O_1	O_2

(1) P，Q が同じ点におかれる確率は $\dfrac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イウ}}}$ である。

(2) 線分 PQ の長さが 1 になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オ}}}$ である。

(3) 線分 PQ の長さが最大になるとき，その最大値は $\sqrt{\boxed{\text{カキ}}}$ であり，このときの確率は $\dfrac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケコ}}}$ である。

(4) △PQR が存在しない確率は $\dfrac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}}$ である。

【９】2016 金沢医科大学 1/21,一般（１次） 医

4 枚の硬貨と 1 個のさいころを同時に投げて，表が出た硬貨の枚数を a，裏が出た硬貨の枚数を c，さいころの出た目を b とする。これらの値に対して不等式

$$ax^2+bx+c \leqq 0 \quad \cdots\cdots ①$$

を考える。

(1)　①の解が

$$-1 \leqq x \leqq -\frac{1}{3} \quad \cdots\cdots ②$$

になるのは $a=$ $\boxed{\text{ア}}$，$b=$ $\boxed{\text{イ}}$，$c=$ $\boxed{\text{ウ}}$ のときである。よって①の解が②になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オカ}}}$ である。

(2)　k を定数とする。①の解が $x=k$ になる確率は $\dfrac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{クケ}}}$ であり，このとき，$k=$ $\boxed{\text{コサ}}$ である。

(3)　①の解がない確率は $\dfrac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{スセ}}}$ である。

(4)　①の解が $x=-3$ を含む確率は $\dfrac{\boxed{\text{ソタ}}}{\boxed{\text{チツ}}}$ である。

【１０】2010 金沢医科大学 1/21, 一般（１次）医

(1)　関数 $y=|x-1|+|2x-7|$ が描くグラフの上に点 $\mathrm{P}(x,\ y)$ を取る。このとき，点 $\mathrm{A}(2,\ 1)$ に対して，点 $\mathrm{T}(s,\ t)$ を線分 PT の中点が A になるように取れば, s と t の満たす式は $t=2-(|s-\boxed{テ}|+|2s-\boxed{ト}|)$ となる。

(2)　原点を中心とした半径 1 の円周上の点 $\mathrm{P}(x,\ y)$， $\mathrm{Q}(x,\ -y)\ (y>0)$ と，点 $\mathrm{A}(2,\ 0)$ の 3 点を通る円があり，その半径を r とする。このとき，r を x で表すと，

$$r=\frac{\boxed{ナ}\,x-\boxed{ニ}}{2x-\boxed{ヌ}}$$

となる。したがって，$\displaystyle\lim_{x\to 1} r=\frac{\boxed{ネ}}{\boxed{ノ}}$ である。

(3)　A, B, C, D, E, F, G, H の 8 人の中から 2 人を選ぶ方法は全部で $\boxed{ハヒ}$ 通りある。これらのペアを $\boxed{ハヒ}$ 枚のカードに次のような仕方で書き込む。

・どのカードにも 1 つのペアだけが書いてある。
・2 枚のカードを任意にとるとき，書かれてあるペアは異なる。

こうして得られたカードから 3 枚を取り出して，そこに書かれている人をすべて委員に選ぶことにする。すると, 選ばれる委員の数は $\boxed{フ}$ 人から $\boxed{ヘ}$ 人までの範囲にある。このとき, 選ばれる委員が $\boxed{フ}$ 人である確率は $\dfrac{\boxed{ホ}}{\boxed{マミム}}$ である。また，選ばれる委員が $\boxed{ヘ}$ 人である確率は $\dfrac{\boxed{メ}}{\boxed{モヤ}}$ である。

【１１】2009 金沢医科大学 1/22,一般(第１次) 医

(1)

原点と点 A(2，3，1) を結ぶ直線上の点で，定点 B(5，9，5) との距離が最小になる点の座標を求めると ($\boxed{ア}$，$\boxed{イ}$，$\boxed{ウ}$) となる。

(2)

0 から 9 までの数字がひとつずつ書かれたカードが 10 枚ある。カードをよくきって，その中から 2 枚のカードを同時に引くとき，2 枚のカードの数字の差が 3 以上になる確率は $\dfrac{\boxed{エオ}}{\boxed{カキ}}$ である。

(3)

実数 a に対して，x に関する 2 次方程式 $x^2+(a-1)x+(a+2)^2=0$ が実数解 $\alpha,\ \beta$ を持つとする。このとき，$(\alpha-1)(\beta-1)$ を a で表した式を $f(a)$ とする。この $f(a)$ は $a=-\dfrac{\boxed{ク}}{\boxed{ケ}}$ のとき最小値 $-\dfrac{\boxed{コ}}{\boxed{サ}}$ を取り，$a=-\boxed{シ}$ のとき最大値 $\boxed{ス}$ を取る。

(4)

自然数 $n(\geqq 2)$ に対して，$n-1$ 個の数の積

$$\sin\frac{\pi}{n}\sin\frac{2\pi}{n}\cdots\sin\frac{(n-1)\pi}{n}$$

を作るとき，その値は，$n=6$ のとき $\dfrac{\boxed{セ}}{\boxed{ソタ}}$ であり，$n=12$ のとき $\dfrac{3}{\boxed{チツテ}}$ である。

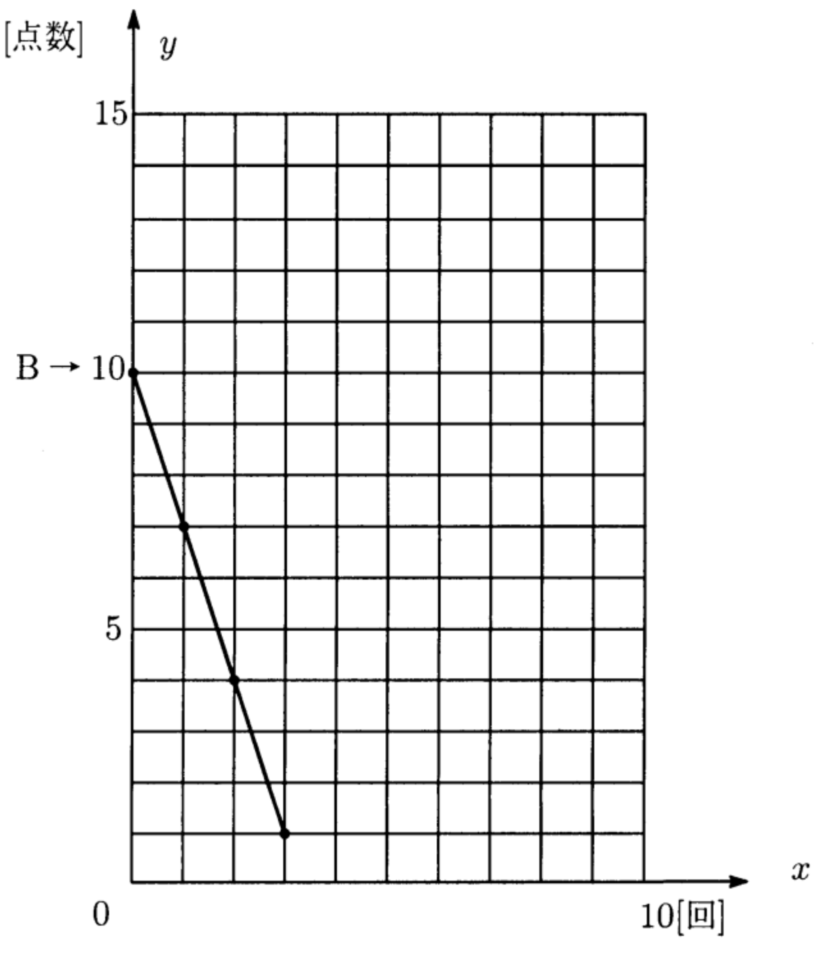
(5)

$0\leqq x\leqq\dfrac{\pi}{2}$ であるすべての x に対して，不等式 $\sin^2 x+a\cos x\geqq 1$ が成立するための必要十分条件は実数 a が不等式 $a\geqq\boxed{ト}$ を満たすことである。

【１２】2005 金沢医科大学 1/13,第１次試験,本学･地方 医学部

A と B の 2 人があるゲームを何回か繰り返して行うとする。このゲームには引き分けはなく，A の勝つ確率は$\dfrac{1}{2}$である。A，B は初めに 10 点ずつ持っている。1 回のゲームでA が勝てばB から 3 点をもらい，A が負ければB がA から 1 点をもらうことにする。A あるいはB の持ち点が 0，1 または 2 になったとき，ゲームは終了するものとする。以下に現れる確率はすべて既約分数で答えなさい。

1．　このゲームの回数を x 軸に，B の持ち点を y 軸にとり，次図のグラフでゲームの経過を表わそう。このゲームをある回数だけするとき，m，n でそれぞれB が勝つ回数と負ける回数を表すと，A，B の持ち点はそれぞれ$10-m+3n$ および$10+m-3n$ となる。そこで，A の持ち点が 2 以下になる最小のゲームの回数は$\boxed{\text{ア}}$であり，$\boxed{\text{ア}}$回未満でゲームが終了するのはB の持ち点が 2 以下になる場合である。しかも，2 回以下の回数でゲームが終了することはない。実際，$10+m-3n \leqq 2$ から，$8 \leqq 8+m \leqq 3n$ となる。そこで，$3 \leqq n$ となるので，B の持ち点が 2 以下になるのは 3 回以上ゲームをしたときである。



２．　まず，ちょうど 3 回でゲームが終了する確率を求める。このとき，前図で B が点 $(0\ ,\ 10)$ から出発して，点 $(1\ ,\ 7)$，$(2\ ,\ 4)$ を通って，$(3\ ,\ 1)$ でゲームが終了する場合のみが該当する。そこで，その確率は $\dfrac{1}{\boxed{\text{イ}}}$ である。

３．　つぎに，ちょうど 4 回でゲームが終了する確率を求めよう。このときは $m=\boxed{\text{ウ}}$ となり，終了する場合の数は $\boxed{\text{エ}}$ であるから，その確率は $\dfrac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カキ}}}$ である。さらに，ちょうど 5 回でゲームが終了する確率は $\boxed{\text{ク}}$ である。

４．　もしも，A の勝つ確率が $\dfrac{1}{2}$ ではなく $\dfrac{1}{3}$ であれば，ちょうど 6 回でゲームが終了する確率は $\dfrac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コサシ}}}$ である。

【１３】2003 金沢医科大学 1/13,第１次試験,本学･地方 医学部

以下の文章の空欄を埋めよ。

数字$1, 2, \cdots, n$が 1 つずつ書かれているn個の玉と，区別のつかないk個の箱がある。ここで$1 \leqq k \leqq n$とする。このとき，空の箱が生じない玉の入れ方の総数を${}_nS_k$で表す。以下のように，${}_nS_k$のいくつかの値とその漸化式を求めてみよう。

１．まず，$k=n$および$k=1$の場合はそれぞれ${}_nS_n = \boxed{\text{(a)}}$，${}_nS_1 = \boxed{\text{(b)}}$である。

２．次に，$k=n-1$の場合を考える。このときは，箱の数が玉の数より 1 つ少ないので，玉が 2 つ入る箱ができる。そこで，求めるものはn個の玉から 2 つの玉を選ぶ仕方の総数と同じであるから${}_nS_{n-1} = \boxed{\text{(c)}}$となる。

３．さらに，$k=2$の場合は，玉n(数字nが書かれている玉)を先にどれかの箱に入れる。すると残った$n-1$個の玉については，それぞれ玉nの入っている箱に入れるか入れないかの 2 通りの場合が生ずる。ゆえに，これらの$n-1$個の玉を 2 つの箱に入れる仕方の総数は$\boxed{\text{(d)}}$であるが，このうち空の箱ができる場合を除くので，${}_nS_2 = \boxed{\text{(e)}}$と求められる。

４．今度は${}_5S_3$を求めてみよう。このとき，玉 5 に注目すると次の 2 つの場合のどれかが起きる。第 1 の場合は，玉 5 を先に 1 つの箱に入れた後，残った 4 つの玉を，玉 5 の入っていない残りの 2 つの箱に入れる場合である。その仕方の総数は${}_4S_2 = \boxed{\text{(f)}}$である。第 2 の場合は，玉 5 以外の 4 つの玉を 3 つの箱に入れた後，玉 5 をそれらの箱のどれかに入れる場合であり，その仕方の総数は$3 \times {}_4S_3 = \boxed{\text{(g)}}$である。この 2 つの場合は互いに排反なので，${}_5S_3 = 3 \times {}_4S_3 + {}_4S_2 = \boxed{\text{(h)}}$が得られる。

５．４．の方法を一般化すると漸化式

$${}_nS_k = k \times \boxed{\text{(i)}} + \boxed{\text{(j)}}$$

が得られる。

６．５．を用いると，例えば${}_6S_4 = \boxed{\text{(k)}}$と計算できる。

【１４】2002 金沢医科大学 1/14, 第１次試験, 本学・地方 医学部

次の文章の空欄を埋めよ。

１．自然数m，n $(m>n)$ に対して，W は分母を 3，分子を自然数とする有理数で，n より大きく m より小さい数の集まりとする。このとき，W の中の有理数の総和は $\boxed{\text{(ｱ)}}$ であり，W の中の自然数の総和は $\boxed{\text{(ｲ)}}$ である。よって，W の中の自然数でない有理数の総和は $\boxed{\text{(ｳ)}}$ である。

２. 正弦, 余弦の加法定理を繰り返し使うと, $n=1$，2，$\cdots$ に対して, $\sin n\theta$, $\cos n\theta$ は x のある整式 $P_n(x)$, $Q_n(x)$ を用いて

$$\begin{cases} \sin n\theta = \sin\theta \cdot P_n(\cos\theta) \\ \cos n\theta = Q_n(\cos\theta) \end{cases}$$

と表される。このとき $P_2(x)$，$P_3(x)$ を求めて，降べきの順に書くとそれぞれ $\boxed{\text{(ｴ)}}$，$\boxed{\text{(ｵ)}}$ である。同様に，$Q_2(x)$，$Q_3(x)$ はそれぞれ $\boxed{\text{(ｶ)}}$，$\boxed{\text{(ｷ)}}$ となる。これらを使うと，$P_5(x)$ は $\boxed{\text{(ｸ)}}$ となるので，$\cos 36^\circ$ の値は $\boxed{\text{(ｹ)}}$ と求められる。したがって，$\tan 36^\circ$ の値は $\boxed{\text{(ｺ)}}$ である。

【１５】2000 金沢医科大学 1/23, 第１次試験, 本学・地方 医学部

以下の文章の空欄を埋めなさい。

正の整数 n, s と負でない整数 r に対して，条件

$$\text{かつ}\quad \left.\begin{array}{l} x_1+x_2+\cdots+x_n=r \\ 0 \leqq x_1,\ x_2, \cdots,\ x_n \leqq s \end{array}\right\} \qquad (*)$$

を満たす整数の組 $(x_1,\ x_2, \cdots,\ x_n)$ の総数を記号 ${}_nD_r$ で示すことにする。ただし，$r>sn$ ならば ${}_nD_r=0$ と定める。たとえば，$s=1$ のときは $x_i\ (1 \leqq i \leqq n)$ が 0 または 1 となり，${}_nD_r$ は n 個のものから r 個を選ぶ選び方の総数と一致するので，二項係数 ${}_nC_r$ そのものである。

以下，$s=2$ のとき，${}_nD_r$ のいくつかの性質を調べてみよう。

まず，$n=1$ のとき，${}_1D_0$，${}_1D_1$，${}_1D_2$ を求めると，この順に 1，1，$\boxed{(1)}$ となる。次に，$n=2$ のとき，${}_2D_0$，${}_2D_1$，${}_2D_2$，${}_2D_3$，${}_2D_4$ は，この順に 1，2，$\boxed{(2)}$，$\boxed{(3)}$，$\boxed{(4)}$ であることがわかる。また，${}_nD_0=\boxed{(5)}$，${}_nD_1=\boxed{(6)}$ である。

次に，$n \geqq 3$，$r \geqq 2$ のとき，$(*)$ において，$x_n=0$ を代入した場合の整数の組 $(x_1,\ x_2, \cdots,\ x_{n-1})$ の総数は，$\boxed{(7)}$ と表される。さらに，$(*)$ において，$x_n=1$ を代入した場合の整数の組 $(x_1,\ x_2, \cdots,\ x_{n-1})$ の総数は，$\boxed{(8)}$ と表され，$x_n=2$ を代入した場合の整数の組 $(x_1,\ x_2, \cdots,\ x_{n-1})$ の総数は，$\boxed{(9)}$ と表される。ゆえに，${}_nD_r$ はこれらの $\boxed{(10)}$ と表されるので，漸化式 ${}_nD_r=\boxed{(11)}$ を得る。

ところで，$(*)$ を満たす整数の組 $(x_1,\ x_2, \cdots,\ x_n)$ に対して，整数の組 $(\boxed{(12)}-x_1,\ \boxed{(12)}-x_2,\ \cdots,\ \boxed{(12)}-x_n)$ は $(*)$ の r を $2n-r$ とした条件を満たしている。よって，${}_nD_r={}_nD_{2n-r}$ である。

さらに，x の $2n$ 次多公式

$${}_nD_0+{}_nD_1x+\cdots+{}_nD_{2n}x^{2n} \qquad (**)$$

を因数分解することを考えてみよう。ただし，x のある多項式が因数分解できないときは，因数分解した形は，その多項式そのものと定める。まず，$n=1$ と $n=2$ のとき，$(**)$ を因数分解すると，それぞれ $\boxed{(13)}$，$\boxed{(14)}$ を得る。これらのことから $(**)$ を因数分解すると，$\boxed{(15)}$ となることが数学的帰納法で示される。これに $x=1$ を代入すると，${}_nD_0+{}_nD_1+\cdots+{}_nD_{2n}=\boxed{(16)}$ が得られる。

【解答１】2021 金沢医科大学 2/4, 一般(前期(１次)) 医

(1)　ア　5　　イウエ　144
(2)　オ　1　　カキ　27
(3)　クケ　25　　コサ　27
(4)　シス　11　　セソ　48

【解答２】2021 金沢医科大学 3/1, 一般(後期(１次)) 医

収録なし

【解答３】2020 金沢医科大学 2/4, 一般(前期(１次)) 医

(1)　ア　7　　イ　6
(2)　ウ　7　　エオカ　216
(3)　キ　2　　クケ　27
(4)　コ　7　　サ　8

【解答４】2020 金沢医科大学 2/28, 一般(後期(１次)) 医

(1)　720　　(2)　120　　(3)　96　　(4)　213546
(5)　696

【解答５】2019 金沢医科大学 1/28, 一般(前期(１次)) 医

収録なし

【解答６】2019 金沢医科大学 2/21, 一般(後期(１次)) 医

収録なし

【解答７】2018 金沢医科大学 1/18, 一般(前期(１次)) 医

収録なし

【解答８】2017 金沢医科大学 1/19, 一般(１次) 医

収録なし

【解答９】2016 金沢医科大学 1/21, 一般(１次) 医

収録なし

【解答１０】2010 金沢医科大学 1/21, 一般（１次） 医

(1)	テ　3	ト　1		
(2)	ナ　4	ニ　5	ヌ　4	ネ　1
	ノ　2			
(3)	ハヒ　28	フ　3	ヘ　6	ホ　2
	マミム　117	メ　5	モヤ　39	

【解答１１】2009 金沢医科大学 1/22, 一般（第１次） 医

(1)	ア　6	イ　9	ウ　3	
(2)	エオ　28	カキ　45		
(3)	ク　5	ケ　2	コ　9	サ　4
	シ　5	ス　4		
(4)	セ　3	ソタ　16	チツテ　512	
(5)	1			

【解答１２】2005 金沢医科大学 1/13, 第１次試験, 本学・地方 医学部

1	ア　8			
2	イ　8			
3	ウ　1	エ　3	オ　3	カキ　16
	ク　0			
4	ケ　8	コサシ　243		

【解答１３】2003 金沢医科大学 1/13, 第１次試験, 本学・地方 医学部

1	(a)　1	(b)　1	
2	(c)　$\frac{1}{2}n(n-1)$		
3	(d)　2^{n-1}	(e)　$2^{n-1}-1$	
4	(f)　7	(g)　18	(h)　25
5	(i)　${}_{n-1}S_k$	(j)　${}_{n-1}S_{k-1}$	
6	(k)　65		

【解答１４】2002 金沢医科大学 1/14, 第１次試験, 本学･地方 医学部

１．(ｱ)　$\frac{1}{2}(3m-3n-1)(m+n)$　(ｲ)　$\frac{1}{2}(m-n-1)(m+n)$

(ｳ)　$(m-n)(m+n)$

２．(ｴ)　$2x$　(ｵ)　$4x^2-1$　(ｶ)　$2x^2-1$

(ｷ)　$4x^3-3x$　(ｸ)　$16x^4-12x^2+1$　(ｹ)　$\frac{1+\sqrt{5}}{4}$

(ｺ)　$\sqrt{5-2\sqrt{5}}$

【解答１５】2000 金沢医科大学 1/23, 第１次試験, 本学･地方 医学部

(1)　1　(2)　3　(3)　2　(4)　1

(5)　1　(6)　n　(7)　${}_{n-1}D_r$　(8)　${}_{n-1}D_{r-1}$

(9)　${}_{n-1}D_{r-2}$　(10)　${}_{n-1}D_r+{}_{n-1}D_{r-1}+{}_{n-1}D_{r-2}$　(11)　2

(12)　2　(13)　2　(14)　$1+x+x^2$　(15)　$(1+x+x^2)^2$

(16)　3^n